

JAL闘争を支える京都の会News No.100

京都市東山区今熊野南日吉町 17 FAX : 075-531-3856 E-mail : komai123@kfa.biglobe.ne.jp

JAL 165名の解雇は まったく必要なかった！

2023年11月28日、大手筋商店街（京都市伏見区）でJAL不当解雇撤回争議勝利をめざす宣伝行動をおこないました。「JAL闘争を支える京都の会」が呼びかけ、「きょうとユニオン」、「自立労連」、「合同繊維労組」、「米軍Xバンドリーダー基地反対・京都連絡会」の皆さんなど、計8人にご参加いただきました。今回の宣伝行動にはJAL客乗争議団の神瀬麻里子さんが参加しました。

神瀬さんは次のように訴えました。「私は2010年の大晦日に164名の仲間とともにJALから解雇された。再建の過程で人員削減目標は超過達成していた。2010年12月時点で1、586億円の営業利益を上げていたにもかかわらず、大晦日にパイロット81名と客室乗務員84名を年齢と病欠歴を基準に整理解雇した。165名は犯罪を犯したわけではなく、会社に損害を与えたわけではない。経営破綻の原因は過去の放漫経営、そして日米貿易摩擦のために膨大な資金を使った、それがJALの破綻の原因である。しかし、個々の責任者は誰もその責任をとっていない。私たちの闘いはまもなく、まる13年になる。JHU・JAL被解雇者労働組合に結集し、35名が今も闘っている。東京都労働委員会でJALと国土交通省へ交渉をおこなうべきだとして、本日も審問がおこなわれている。今日は具体的な今後の方針が出るのではないかとということで、春頃には良い結論を持ちたい、そのように思っ



て、私たち組合員一同全国でがんばっている。ここ京都の他にも、毎月、東京では6カ所、埼玉、横浜、愛媛、福岡でこのような宣伝をし、JALを追い詰めよう、それが私たちの願いである。12月22日にはJAL本社前に1000名規模の大きな集会を予定している。また11月6日には東京都労委に対して、国会議員の方24名がこの

12月22日にはJAL本社前に1000名規模の大きな集会を予定している。また11月6日には東京都労委に対して、国会議員の方24名がこの

JAL問題の解決につてさらなる力を貸してほしいということで申入れをおこなった。その24名の中には自民党の国会議員、共産党の国会議員、右から左まで、無所属の議員まで賛同してくれている。そのことは11月8日毎日新聞の記事にもなっている。このようにして



じわじわとJALを追い詰めている、それが今の状況だと思う。JALは航空会社、公共交通機関である。お客様の命をお預かりしている。今日この時間にも京都の上空をJALの飛行機が飛んでいるはずである。飛ばしている乗務員、そして地上職員全員が、この便を安全に目的地まで届けたい、その思いで必死で仕事をしている。しかし残念ながら現場から聞こえてくるのは、人が足りない、時間が足りない、部品が足りない、そんな叫びである。JALはここ10年間、営業

利益の最高記録を塗り替えている。そのお金をなぜ社員や解雇された者に使わないのか、私にはそれが不思議でたまらない。儲けるだけ儲けてそれが内部留保にまわる。この事象はJALだけではない。日本全国の労働者の賃金が30年間上がっていない。こんな異常なことをいつまで続けるのか。物価高はまったく止まる様相を見せていない。十年前まではこども食堂という言葉はなかった。ワーキングプアという言葉も昔はなかった。こんな言葉ができたのも貧困が進んでいる証ではないか。8時間働けば、普通に暮らせる世の中、そんな世の中を私たちは求めている。解雇自由な世の中にしなため、そして航空の安全を守るため、ここ京都の稲盛和夫さんのお膝元である大手筋商店街で訴えをさせていただいている。先ほども通行人の方が声をかけていただいたが、稲盛和夫さんは決して経営の神様ではない、ただ時流に乗って目の付け所が良かったから京セラという会社があんなに大きくなったが、決して経営の神様ではない、そういうふうに言って

くださった。私もそう思う。なぜならば稲盛和夫さんは私たち165名を解雇した、たった1カ月後に、あの解雇は必要がなかったと発言している。その発言も1回ではない。記者会見でも東京地方裁判所の証人として出廷されたときもそのように発言された。いつかこのことは私たち当事者にお返しをしたい、そのようにも発言されたが、まったくお返しはしていただけないまま、昨年稲盛さんは亡くなった。ここ伏見にお住まいの皆さん、ぜひ今仲間のお配りしているチラシを手にとり、私たちの運動にご理解とご協力をお願いしたい。」と訴えました。他に自立労連のFさん、9条ネット・滋賀のIさん、「京都の会」事務局長のKさんもJAL不当解雇撤回を訴えました。



また、稲盛和夫さんは決して経営の神様ではない、ただ時流に乗って目の付け所が良かったから京セラという会社があんなに大きくなったが、決して経営の神様ではない、そういうふうに言ってくださった。私もそう思う。なぜならば稲盛和夫さんは私たち165名を解雇した、たった1カ月後に、あの解雇は必要がなかったと発言している。その発言も1回ではない。記者会見でも東京地方裁判所の証人として出廷されたときもそのように発言された。いつかこのことは私たち当事者にお返しをしたい、そのようにも発言されたが、まったくお返しはしていただけないまま、昨年稲盛さんは亡くなった。ここ伏見にお住まいの皆さん、ぜひ今仲間のお配りしているチラシを手にとり、私たちの運動にご理解とご協力をお願いしたい。」と訴えました。他に自立労連のFさん、9条ネット・滋賀のIさん、「京都の会」事務局長のKさんもJAL不当解雇撤回を訴えました。

次回宣伝行動 (主催 JAL闘争を支える京都の会)
12月26日(火) 午後2時~3時 伏見・大手筋商店街